

目指す学校像	大宮南中のよき伝統を継承しつつ、変化と前進を続ける学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業の工夫・改善 2 きめ細かな指導をとおした心豊かな生徒の育成と多様な教育的ニーズを踏まえた教育の推進及び 安全・安心で心潤う教育環境づくり 3 保護者・地域との連携・協力の推進 4 自ら学び、保護者・地域に信頼される教職員の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価		学校自己評価		学校自己評価		学校自己評価		学校自己評価	
年	度	目	標	年	度	目	標	年	度
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価	実施日
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、数学・英語ともに良好な結果であった。市の学習状況調査の正答率においても、全ての学年、教科で良好な結果が見られた。 ○市の学習状況調査において、学習に対する興味・関心に関する質問の結果は概ね良好だが、特定の学年・教科で市の平均を下回っている。 ○総合的な学習の時間では、生徒は積極的に探究的な学びに取り組んでいる。 (課題) ○学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるなど、新たな指標に基づいた授業改善と検証が必要である。 ○ICTを活用し、個別最適な学びを実現することに課題がある。	・学ぶ楽しさを実感し、主体的に学ぶ授業の実施 ・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善	①全国学力・学習状況調査の結果を基に、生徒の学習状況を把握し、授業改善に生かす。 ②個別に課題を設定したり、個に応じた学習方法を設定したり、主体的に学ぶ授業を展開する。 ③総合的な学習の時間等において、考える活動、話し合う活動、表現する活動(プレゼンテーション等)を、ICTを活用して行う。	①生徒が調査結果をもとに、自分の学習状況を把握し、目標を立て、学力向上に向けて行動できるようになったか。 ②各調査の教科に対する興味・関心の値が市の平均値を上回る結果となったか。 ③市学習状況調査で「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」で肯定的な回答の生徒が100%とすることができたか。	①全国学力・学習状況調査、市学習状況調査とも良好な結果であった。生徒は引き続き意欲的に学力向上に取り組んだ。 ②全国学力・学習状況調査の国、数の興味・関心についての回答では、7.1ポイント～17.9ポイント市の平均値を上回った。 ③市学習状況調査(質問紙)の結果は95～98.9%と100%に届かなかったが、市平均を全学年で上回った。全国学力・学習状況調査結果では95.7%(全国平均82.2%)という結果であった。	B	・学校教育目標「輝く個性 夢きらり」を実現するため、「学習者が主体的に学ぶ授業」の研究を引き続き進めていく。また、進路指導・キャリア教育の視点をもって、子どもたちの夢や目標の達成に向けて、将来必要な力を身につけさせる指導の充実を図る。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・学力向上に向けて保護者から高い期待があり、引き続き学校全体で授業改善に取り組んでほしい。	令和7年2月13日
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」と回答をした生徒は、市平均を上回った。 ○学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさをいかして解決方法を決めている。 (課題) ○生徒の心の不安定な状況や長期欠席が問題となっている。今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切に組織的に支援・相談を進める体制、仕組みづくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うとともに、子どもたちの安全を守るために関係機関との体制づくりを構築することが課題である。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全点検の確実な実施と子どもたちの健康・安全の実現に向けた取組の充実	①教育相談・特別支援の校内委員会で蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 ②生徒主体の生活のきまり検討委員会やいじめ対策委員会などの話し合い活動に取り組む。	①学校評価アンケート(教職員)で教育相談のA評価が65%以上となったか。 ②学校評価アンケート(生徒)で教育相談のA評価が65%以上となったか。 ③生徒主体の話し合いを行い、生活のきまりの検討を進めることができたか。	①学校評価アンケート(教職員)で教育相談のA評価は56%(AB96%)となった。 ②学校評価アンケート(生徒)で教育相談のA評価65.1%(AB96.6%)となった。 ③生徒主体の「きまり検討委員会」「集会」を開催し、生活のきまりを検討し、変更することができた。	B	・今後も教育相談体制について、学校として必要な対応について検討を進める。		
3	(現状) ○本校学校運営協議会では、夢や目標をもち、自己効力感の高い生徒を学校・家庭・地域が協働で育てていくことを共有した。 ○学校行事について、コロナ禍を経て様々な検討が進められている。 (課題) ○学校運営協議会で共有した目指す生徒の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、生徒に育てたい力についてさらに熟議し、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・目指す生徒の育成に向けた学校・家庭・地域が協働で行う取組の整理と充実 ・目指す生徒の育成に向けた実践を共有するためのICTの活用、教育活動公開	①学校運営協議会を年3回実施し、学校の課題解決に向けて、主体的な取組内容を検討し、目指す生徒の育成を行う。 ②整理した計画に基づき、具体的な方策を実施し、学校・家庭・地域が協働した取組の成果を検証し、充実を図る。	①学校運営協議会を年3回実施したか。 ②学校運営協議会の一員として目指す生徒像の共有し、学校の課題について具体的に話し合うことができたか。	①学校運営協議会を年3回実施した。 ②学校運営協議会において学校の課題を報告し、各団体と連携しながら学校の安全面の強化について議論を深めた。	A	・学校の教育活動に地域等の力を取り入れる具体策を検討する。	・保護者は、より丁寧で多くの情報発信を求めていると思われる。 ・小学校6年生は情報を得る機会が多くあったが、中学校1年生での情報発信は、比較的少ないと感じるのではないかと。特に1年生は不安も多いので、授業参観等、公開する機会を増やせることよいのではないかと。 ・情報発信の評価について、ホームページの閲覧数など成果指標にすることができるとよい。	
4	(現状) ○学習指導要領の趣旨に即した指導と評価の一体化に向けた各教科の取組を計画的に進め、昨年度研究のまとめを行った。 ○ICTの活用について、エバンジェリストを中心に研修を重ね、活用が進められている。 ○各教職員が、ライフステージに応じた研修を意欲的に進めている。 (課題) ○新たな指標に基づいた学習指導の改善を進める必要がある。 ○ICTの活用について、教員間で差が見られる。成果や課題を洗い出し、全教職員が効果的な場面での活用について実践的に学ぶ必要がある。	・個別最適な学びを推進し、主体的に学ぶ授業づくり ・各教職員のライフステージに応じた個別最適な研修の推進	①学校課題研修部員による推進委員会を定期的に開催し、研修を計画的に進めて、部会ごとの授業公開、研究協議を行うなど、教科の枠を越えて学校全体で取り組む。 ②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む研修計画を立案し、面談等で適時に進行を管理し、指導力の向上を図る。 ③全教職員が個別最適で協働的な学びの実現を目指したICTの活用を進める。	①教科横断的な部会を編成し、授業研究、授業公開を実施し、全教職員が主体的に学ぶ授業づくりを実施しているか。 ②全教職員が、計画に即して研修を進め、各自の目標を達成することができたか。 ③全教職員がアクティブラーニングの推進を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。	①研修においては、自主的に課題をもって行う時間を設けるなど、全教職員で研修を深め、授業公開(3部会)は3学期に実施した。 ②初任者、各年次研修、中堅教諭等研修及びその他各自で設定した研修を計画的に進め、立案した目標を達成することができた。 ③全教職員がアクティブラーニングの推進を目指し、ICTについては個別最適な学びに効果的な活用方法を研究し、実践を積み重ねた。	B	・新たな学校課題として進路指導・キャリア教育に関する校内研修では、外部から指導者を招聘して研修会を行うなど研修内容の充実を図る。		